

第 24 回 定時株主総会 議 案 書

日 時 令和 7 年 6 月 20 日(金) 午前 10 時から
場所 新しい村 村の集会所

[この議案書は、定時株主総会当日にご持参ください]

株式会社新しい村

■議 案■

□報告事項 第 24 期事業報告書報告の件

○第 24 期事業報告書

第 24 期決算書類の報告の件

○貸借対照表 ○損益計算書 ○販売費及び一般管理費

○製造原価報告書 ○株主資本等変動計算書 ○個別注記表

○財産目録 ○監査報告書

□議案第 1 号 第 25 期経営方針(事業計画案)の件

□議案第 2 号 取締役の報酬額の件

取締役の受けるべき報酬の額を年額 600 万円以内とし、支給の額は取締役会議で決定する。

□議案第 3 号 監査役の報酬額の件

監査役の受けるべき報酬の額を 1 名につき年額 8 万 4 千円とする。

□議案第 4 号 会計参与の報酬額の件

会計参与の受けるべき報酬の額を年額 19 万 8 千円とする。

□報告事項 第 24 期事業報告書報告の件

○第 24 期事業報告書

第 24 期決算書類の報告の件

○貸借対照表 ○損益計算書 ○販売費及び一般管理費

○製造原価報告書 ○株主資本等変動計算書 ○個別注記表

○財産目録 ○監査報告書

第 2 4 期事業報告書

株式会社 新しい村

施設の事業運営について

(1)地産地消モデル事業(森のカフェ運営)

【事業の運営方針、概要】

本事業の目的は「農」のあるまちづくりの理念に基づき、カフェメニュー等の販売を通じ、お客様へ食育を推進していく最も重要な役割を主とした事業で、本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 「農」のあるまちづくりの理念に基づき、地元農産物を使用した新規メニューの考案、及び販売を通じ地域のお客様から支持される施設運営に努めて参ります。
- イ 地元で採れた農産物を積極的に使用することにより、健康に配慮したメニューとの共有を図り、より一層、地域のお客様へ安心・安全で満足度の高い食育の提案に努めて参ります。
- ウ 地元農産物の食材にて、付加価値のある商品を開発する等、販売実施の具現化を目指し、カフェ事業として独自のオリジナルメニューの確立を常に追求した業務を心掛け運営にあたります。
- エ 季節に応じ、お客様へ配慮した屋外休憩スペースを最大限に活用し、お客様へ食と自然環境を満喫していただき、利用頻度を上げることで収益の改善を含めた運営の継続に努めて参ります。

【第24期の目標、及び実施、施策事項報告】

①森のカフェ運営業務(金額単位:千円)

ア 新しい村オリジナル、カフェ新規メニュー開発の継続

自社部門連携としてハーブや野菜を使用した商品を販売継続しました。

イ 季節イベント時の販売強化

結生産者と調整を行い、季節ごとのドリンクやスイーツを販売しました。(夏のメニューは季節のソーダ1,029点、フルーツアイスキャンディ193点、冬のメニューは季節のスープ210点、ほっと柚子・レモン450点)

ウ カフェメニューの作業効率化、及び収益の確保

毎月の売上データを確認し、ロスが出ない様にと、お客様からのご要望等も含めて運営を行いました。

エ 森のカフェ 第24期月別売上実績表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上実績	1,202	1,061	848	660	876	892
月	10月	11月	12月	R7/1月	2月	3月
売上実績	909	868	618	592	606	837

オ 森のカフェ 第24期売上実績、及び前期対比

項目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	6,000	5,539	5,910	93.7%
下半期	4,750	4,430	4,473	99.0%
年間合計	10,750	9,969	10,383	96.0%

(2)地産地消モデル事業(森の市場結運営)

【事業の運営方針、概要】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 宮代町の「農」のある環境を最大限に活かし、生産者農産物直売所としての更なる活性化を目指し、運営にあたります。
- イ 自然豊かなロケーションを最大限に活かし、「農産物直売所及びカフェ」とマッチングした憩いの場としてお客様から支持される施設運営に努めて参ります。
- ウ 町内、町外のお客様へ、安心・安全な農産物を地産地消の基本理念に基づき食材提供の場として直売所の運営に努めて参ります。

【第24期の目標、及び実施、施策事項報告】

①森の市場「結」運営業務(金額単位:千円)

ア 地場産農産物の売上比率の確保

農産物地場産比率を60%キープ目標としていますが、今年度は51.7%となりました。

イ 魅力ある直売所作り

1商品3生産者を目標年運営にあたりました。新規生産者は町内7件(こびと工房(商業者)、宮元亮介(野菜)、矢部正成(果樹) La Libllula(工房商業者)、豆いち(商業者)、もち処(商業者)、ルソント(商業者))、町外2件(パンシェア(商業者)、齋藤正行(野菜))

ウ 売場の多様化の継続

自社部門連携として特別栽培米コシヒカリを使用したオリジナル日本酒を製造しました。

エ 集荷、宅配サービス事業の継続

年間集荷は287件となりチラシを年3回(8月・12月下旬2回)各1000部作成し宮代台・桃山台地区にポスティングのほか、法人企業向けの宅配実施を行い年間宅配は237件となりました。

オ スタッフ教育の強化

売場の整理整頓、お客様へサービス向上のためのスタッフ教育として第24期は「POP研修」を行いました。

カ 生産者組合会員会議の充実化

年4回の運営会議や生産者組合だよりの発行をすることでより良い農作物の生産を学び、互いに情報を交換し、農家と商業者とが交流を図ることに努めました。(4月18日、11月12日、2月16日に実施組合だよりは2回(12月2日・3月11日)発行)

キ 消費者モニター会の実施継続

R6年2月27日、5月28日、8月27日、11月26日に実施し、意見交換を行いより良い直売所運営の改善につなげました。

ク 業務委託テナント(パン工房、惣菜)との業務共有

地元の食材を使用し、食を通して農のあるまちづくりを推進する為に業務委託テナント業者と自社商品の共有を実施しながら業務を行いました。

ケ イベントの実施

- 中止になったもの(あっそんでフェスタ・フルーツフェスタ・村の大収穫祭)

●実施したもの

生産者土曜市（毎月第一土曜）・お米の特売日（毎月４回）

（定期）

５月 春の苗物市・園芸相談会・お弁当市・あまいもの市・ゴールデンウィークフェア

６月 ホタルの夕べ

９月 新米まつり

１２月 歳末大感謝祭

１月 新春抽選会（生産者組合と共催）

１月～３月 いちごまつり

３月・９月 お彼岸ウィーク

コ 森の市場「結」 第 24 期月別売上実績表

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
売上予算	21,879	20,698	16,948	13,965	19,882	21,170
月	１０月	１１月	１２月	R7 / １月	２月	３月
売上予算	18,766	17,650	25,246	18,150	19,615	20,518

カ 森の市場「結」 第 24 期売上実績、及び前期対比

項 目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	127,700	114,542	126,988	90.2%
下半期	122,000	119,945	112,521	106.6%
年間合計	249,700	234,487	239,509	97.9%

キ 外販事業 第 24 期月別売上実績表

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
売上予算	1,306	1,532	1,497	1,280	842	1,601
月	１０月	１１月	１２月	R7 / １月	２月	３月
売上予算	1,562	1,420	1,536	2,016	1,501	1,277

ク 外販事業 第 24 期売上実績、及び前期対比

項 目	売上予算	売上実績	前期実績	前期対比
上半期	8,300	8,058	8,191	98.4%
下半期	8,570	9,312	8,350	111.5%
年間合計	16,870	17,370	16,541	105.0%

施設の事業運営について

(3)農家支援・農業サービス事業(育苗、農産物生産、圃場管理)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 「農」のある環境を維持再生していくための農家に対する支援対策事業の継続に努めて参ります。
- イ 関係機関と連携をとり「農」のあるまちづくり政策に基づき指定管理者として、農業支援事業としての、社内受入れ体制の確立の継続に努めて参ります。
- ウ 自部門の増収増益の確立、又森の市場「結」の課題である高齢化による農産物出荷量減少の一部解消、及びその他関係施設へ安定供給を図るため、通年を通しての本格的な野菜生産拡大に努めて参ります。
- エ 有効活用の一環として育苗用パイプハウスを農閑期、春から秋にかけ農家への貸し出しを実施し、野菜生産での有効活用、生産品は基本自社森の市場「結」での販売が条件で、売場の活性化に努めて参ります。
- オ 中長期的計画に基づき今後高齢化に伴う後継者不足が予測される遊休圃場を農家支援の一環とし、社内従業員が稲作、野菜業務の生産技術を高め将来を見据えた、新しい村就農希望者の受け入れや研修制度を視野に入れた取組みと、宮代町の「農」あるまちづくり政策に沿った社内運営を目指し、地域の活性化に努めて参ります。

【第24期の目標、及び実施、施策事項報告】

① 農家支援・農業サービス事業運営業務（単位：千円）

ア 農作業受託 第24期農業受託作業売上実績表

項目	受託作業内容	売上実績	前期実績
稲作作業受託	春作業	764	1,032
稲作作業受託	秋作業	2,346	2,629
その他	耕耘作業・草刈り等	962	1,521
合計		4,072	5,182

イ 水稻苗育苗 第24期水稻苗販売実績金額表

項目	出芽苗	硬化苗	前期出芽苗	前期硬化苗
販売予定金額	7,452	13,086	7,204	11,964
合計金額	20,538		19,168	

- ・水稻苗の生産販売は自社利用分を含めて 31,373 枚の苗を生産販売しました。

ウ 稲作(作付け)実績 前期比較

No	品種	実利用面積 (a)	30 kg/袋	実利用面積 (a)	30 kg/袋
		今期		前期	
1	コシヒカリ	1278.29	1,963	435	574
2	特別栽培米コシヒカリ	156.52	234	503	547
3	特別栽培米ミルキークイーン	145.67	195	145	161
4	特別栽培米彩のきずな	92.70	48	205	20
5	満月もち	11.06	9	11	12
6	ほしじるし	260.67		57	45
7	飼料用米		382	636	582
	合計	1944.91	2,831	1,992	1,941

エ 稲作(作付け)実績 第24期 2024年度産米販売実績

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上実績	玄米 30 kg/1 袋	前期実績
		今期		前期	
1	日本工業大学 (株)NIT クリエイト	240	1,920	339	2,615
2	森の市場結 (外販、惣菜含む)	1,113	9,177	985	6,382
3	ふるさと納税	145	1,240	92	867
4	JA (飼料用米)	382	1,995	536	4,107
5	その他 (契約業務・満月もち・在庫)	95	586	96	1,485
6	その他 (くず米・奨励金)		2,830		
	合計	1,975	17,748	2,048	15,456

オ 野菜(作付け)実績 第24期野菜生産実績

No	作物名	売上実績	前期実績
1	トウモロコシ、ブロッコリー、エダマメ、ジャガイモ、キャベツ、サツマイモ、トマト、ニンジン他	4,004	5,604
	合計	4,004	5,604

カ 農家支援・農業サービス事業全体売上実績表

No	項目	内訳	売上実績	前期実績
1	農業受託	稲作	4,072	5,182
2	水稻苗育苗	出芽苗・硬化苗	20,538	19,168
3	村管理生産	稲作	17,748	15,456
4	野菜生産	野菜全般	4,004	5,604
5	その他	そば・補助金等	1,785	3
	合計		48,147	45,627

施設の事業運営について

(4)農体験・農園交流事業

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 様々な手法を活用したグリーンツーリズム事業を展開することにより、都市住民との交流を積極的に図り、地域の活性化を図ります。
- イ 「農」のあるまちづくりの理念を広く浸透させていくため、新しい村の持つ自然環境の施設を活かした様々な生涯学習活動を展開します。
- ウ 事業展開にあたっては、市民参加や民間企業との連携により、事業の多面的展開及び拡大を図っていきます。

エ 利用者拡大に向けた農体験・農園交流事業の目標集客数

項 目	目標集客数
市民農園利用料	継続的に 90%以上（64 区画以上）
田植え・稲刈り体験	年 10 回以上・延べ参加者 500 人以上
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者 300 人以上
野菜収穫体験	延べ参加者 400 人以上
畑で婚活	年 5 回以上、延べ参加者 180 人以上
宮代産野菜を使用した料理講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上

※田植え・稲刈り体験は町内小学校 4 校で実施する「田んぼの学校」を含みます。

- オ ほっつけ田の田植え、稲刈り体験事業における年間売上目標額は150万円以上、農業体験企画実施業務における年間売上目標額は300万円以上とします。

【第24期の目標、及び実施、施策事項報告】

①農体験・農園交流事業運営業務

ア 実績集客数売上実績(金額単位:千円)

項 目	実績集客数	売上実績	前期実績
市民農園利用料	継続的に 90%以上（64 区画以上）	874	855
田植え・稲刈り体験	年 35 回・延べ参加者 2,051 人	2,140	1,557
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者 306 人	299	468
野菜収穫体験	延べ参加者 470 人	170	207
婚活交流	年 1 回、延べ参加者 15 人	67	67

宮代産野菜を使用した料理講座	年 8 回、延べ参加者 75 人	88	238
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 6 回、延べ参加 215 人	467	412
ハーブ講座	年 8 回、延べ参加者 80 人	407	446
6 次化商品開発		289	351
その他講座		150	125
ハーブ売上		398	2, 543
貸出備品、その他商品イベント等		1, 706	
合計		7, 055	7, 269

施設総合管理について

(1) 第24期年間スケジュール表

自然環境の保全と園内の美化に努め、来園者の安全確保と癒しの空間造りを目指しました。

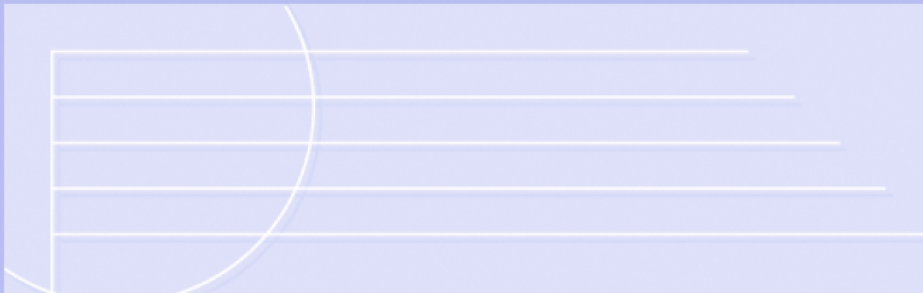
No.	管理業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	草刈作業	○	○	○	○	○	○
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年1回）			○			
8	害虫駆除	○	○	○	○	○	○
9	特別清掃				○		
No.	管理業務内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	草刈作業	○	○				
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						○
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年1回）						
8	害虫駆除	○	○				
9	特別清掃					○	

第24期各事業部収益実績

(1) 第24期各事業部売上実績(金額単位:千円)

項目	勘定科目	収支計画	今期実績	増減
売上高	カフェ事業（地産地消課）	10,750	9,969	▲781
	直売所事業（地産地消課）	249,700	234,487	▲15,213
	外販事業（地産地消課）	16,870	17,370	500
	農業支援事業（アグリ生産課）	53,790	48,147	▲5,643
	グリーンツーリズム事業（総務・経理課）	6,500	7,055	555
	事業部計	337,610	317,028	▲20,582
	売上純損益金額（指定管理料含む）	163,000	96,805	
	販売費及び一般管理費合計	160,000	110,946	
	営業損失		▲14,142	
	経常外損益		6,138	
	経常損益金額	3,000	▲8,004	

※社内資料としてアグリ生産課「材料費、労務費、経費」は事業部全体の販売費、及び一般管理費にて計上しました。各関係者、及び関係機関への提出用決算書類は、税理士事務所で作成されたものが全て適用となります。



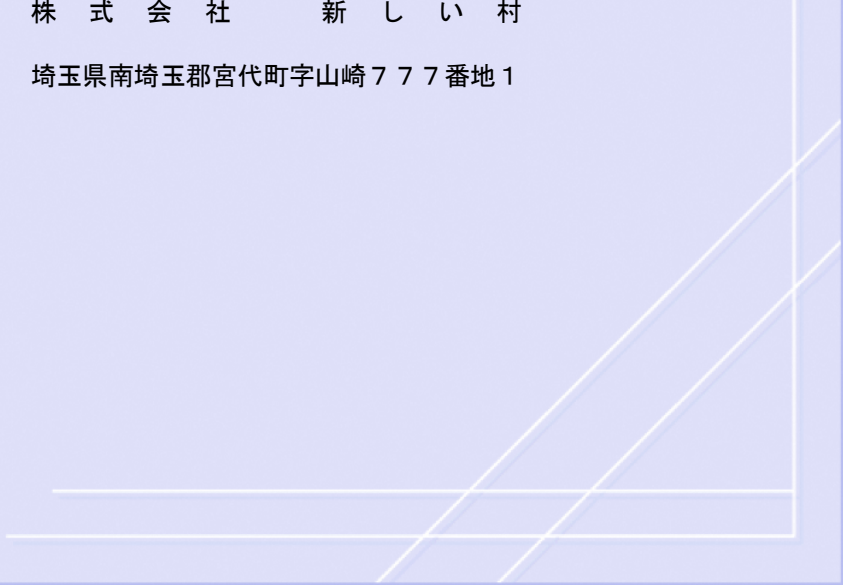
決 算 報 告 書

(第 24 期)

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

株 式 会 社 新 し い 村

埼玉県南埼玉郡宮代町字山崎777番地1



貸借対照表

株式会社 新しい村

【資産の部】

令和 7年 3月31日 現在

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【流動資産】	【 62,777,114】	【 69,714,553】	【 △6,937,439】	90.0
現 金	2,179,390	1,749,889	429,501	124.5
預 金	32,486,502	42,657,064	△10,170,562	76.2
売 掛 金	7,385,002	9,611,774	△2,226,772	76.8
商 品	8,808,320	4,982,554	3,825,766	176.8
原 材 料	74,348	108,521	△34,173	68.5
仕 掛 品	7,617,795	5,969,299	1,648,496	127.6
貯 蔵 品	886,715	1,063,393	△176,678	83.4
前 渡 金	2,941,696	2,941,696		100.0
仮 払 金	113,316	60,604	52,712	187.0
前 払 費 用		283,800	△283,800	
未 収 入 金	205,858	285,959	△80,101	72.0
立 替 金	78,172		78,172	
【固定資産】	【 37,121,393】	【 35,787,047】	【 1,334,346】	103.7
(有形固定資産)	(34,736,264)	(34,262,230)	(474,034)	101.4
建 物	52,205,668	52,205,668		100.0
減価償却累計額	△37,845,892	△35,937,949	△1,907,943	105.3
建物附属設備	6,558,286	6,558,286		100.0
減価償却累計額	△6,388,018	△6,289,985	△98,033	101.6
構 築 物	13,938,745	13,938,745		100.0
減価償却累計額	△11,282,038	△10,776,690	△505,348	104.7
機 械 装 置	71,512,678	68,938,690	2,573,988	103.7
減価償却累計額	△57,699,107	△58,243,318	544,211	99.1
車 両 運 搬 具	7,639,545	8,648,254	△1,008,709	88.3
減価償却累計額	△7,639,533	△8,648,241	1,008,708	88.3
工 具 器 具 備 品	22,871,396	22,461,192	410,204	101.8
減価償却累計額	△19,500,355	△18,918,601	△581,754	103.1
一括償却資産	364,889	326,179	38,710	111.9
(無形固定資産)	(772,065)	(772,065)		100.0
電 話 加 入 権	772,065	772,065		100.0
(投資その他の資産)	(1,613,064)	(752,752)	(860,312)	214.3
出 資 金	223,900	223,900		100.0
差 入 保 証 金	500,000		500,000	
保 険 積 立 金	813,212	528,852	284,360	153.8
長 期 前 払 費 用	75,952		75,952	
資 産 合 計	99,898,507	105,501,600	△5,603,093	94.7

貸借対照表

株式会社 新しい村

【負債・純資産の部】

令和 7年 3月31日 現在

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【流 動 負 債】	【 32,719,053】	【 33,994,424】	【 △1,275,371】	96.2
買 掛 金	20,045,945	20,692,923	△646,978	96.9
未 払 金	5,843,714	5,209,204	634,510	112.2
未 払 費 用	3,598,403	5,350,397	△1,751,994	67.3
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000		100.0
前 受 金	32,500		32,500	
預 り 金	729,491	640,900	88,591	113.8
仮 受 金	75,000		75,000	
未 払 消 費 税 等	2,324,000	2,031,000	293,000	114.4
【固 定 負 債】	【 6,236,000】	【 2,472,000】	【 3,764,000】	252.3
長 期 借 入 金	6,236,000	2,472,000	3,764,000	252.3
負 債 合 計	38,955,053	36,466,424	2,488,629	106.8
【株 主 資 本】	【 60,943,454】	【 69,035,176】	【 △8,091,722】	88.3
資 本 金	5,000,000	5,000,000		100.0
(利 益 剰 余 金)	(56,093,454)	(64,185,176)	(△8,091,722)	87.4
そ の 他 利 益 剰 余 金	56,093,454	64,185,176	△8,091,722	87.4
別 途 積 立 金	43,000,000	43,000,000		100.0
繰 越 利 益 剰 余 金	13,093,454	21,185,176	△8,091,722	61.8
自 己 株 式	△150,000	△150,000		100.0
純 資 産 合 計	60,943,454	69,035,176	△8,091,722	88.3
負 債 ・ 純 資 産 合 計	99,898,507	105,501,600	△5,603,093	94.7

損益計算書

株式会社 新しい村

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【売 上 高】	【 347,878,622】	【 272,867,776】	【 75,010,846】	127.5
売 上 高	261,826,495	192,348,329	69,478,166	136.1
委 託 料 収 入	30,850,916	31,230,916	△380,000	98.8
農 園 交 流 売 上 高	7,054,522	7,268,949	△214,427	97.1
農 業 法 人 売 上 高	48,146,689	42,019,582	6,127,107	114.6
【売 上 原 価】	【 251,074,119】	【 182,430,406】	【 68,643,713】	137.6
期 首 棚 卸 高	5,091,075	7,502,165	△2,411,090	67.9
仕 入 高	198,010,868	129,793,090	68,217,778	152.6
当 期 製 品 製 造 原 価	56,854,844	50,226,226	6,628,618	113.2
期 末 棚 卸 高	△8,882,668	△5,091,075	△3,791,593	174.5
売 上 総 利 益 金 額	96,804,503	90,437,370	6,367,133	107.0
【販売費及び一般管理費】	【 110,946,251】	【 108,065,469】	【 2,880,782】	102.7
営 業 損 失 金 額	△14,141,748	△17,628,099	3,486,351	80.2
【営 業 外 収 益】	【 6,158,393】	【 11,628,556】	【 △5,470,163】	53.0
受 取 利 息	17,540	576	16,964	3045.1
受 取 配 当 金	2,339	2,339		100.0
雑 収 入	6,138,514	11,625,641	△5,487,127	52.8
【営 業 外 費 用】	【 20,629】	【 20,550】	【 79】	100.4
支 払 利 息 割 引 料	8,124	13,355	△5,231	60.8
雑 損 失	12,505	7,195	5,310	173.8
経 常 損 失 金 額	△8,003,984	△6,020,093	△1,983,891	133.0
【特 別 損 失】	【 17,738】	【 895,455】	【 △877,717】	2.0
固 定 資 産 除 却 損	17,738	1	17,737	****. *
固 定 資 産 圧 縮 損		895,454	△895,454	
税引前当期純損失金額	△8,021,722	△6,915,548	△1,106,174	116.0
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000		100.0
当 期 純 損 失 金 額	△8,091,722	△6,985,548	△1,106,174	115.8

販売費及び一般管理費

株式会社 新しい村

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
役 員 報 酬	5,894,500	4,818,000	1,076,500	122.3
給 与 手 当	17,669,379	17,564,002	105,377	100.6
雑 給	31,305,138	31,527,441	△222,303	99.3
賞 与	608,045	1,610,872	△1,002,827	37.7
退 職 金	661,800		661,800	
支 払 報 酬	180,000	180,000		100.0
法 定 福 利 費	6,633,194	6,695,324	△62,130	99.1
福 利 厚 生 費	612,857	532,761	80,096	115.0
外 注 費	4,091,480	3,068,234	1,023,246	133.3
旅 費 交 通 費	1,049,226	1,044,376	4,850	100.5
通 信 費	1,411,757	1,157,571	254,186	122.0
交 際 費	936,182	555,293	380,889	168.6
減 価 償 却 費	5,094,798	3,624,646	1,470,152	140.6
賃 借 料	243,988	56,664	187,324	430.6
保 険 料	773,430	720,040	53,390	107.4
修 繕 費	4,207,543	6,092,812	△1,885,269	69.1
水 道 光 熱 費	4,693,541	5,218,804	△525,263	89.9
燃 料 費	672,654	683,887	△11,233	98.4
消 耗 品 費	5,301,163	5,155,508	145,655	102.8
租 税 公 課	650,950	562,440	88,510	115.7
運 賃	329,695	318,497	11,198	103.5
荷 造 包 装 費	1,083,824	1,320,003	△236,179	82.1
事 務 用 品 費	190,728	209,245	△18,517	91.2
広 告 宣 伝 費	2,287,262	2,201,451	85,811	103.9
支 払 手 数 料	3,352,532	2,870,831	481,701	116.8
諸 会 費	92,764	58,400	34,364	158.8
新 聞 図 書 費	81,989	66,280	15,709	123.7
リ ー ス 料	3,377,400	3,610,200	△232,800	93.6
会 議 費	68,542	21,166	47,376	323.8
イ ベ ン ト 費	59,468	180,178	△120,710	33.0
研 修 費	304,514		304,514	
廃 棄 処 分 費	259,206	181,523	77,683	142.8
雑 費	6,766,702	6,159,020	607,682	109.9
合 計	110,946,251	108,065,469	2,880,782	102.7

製造原価報告書

株式会社 新しい村

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【材 料 費】	【 9,538,226】	【 6,457,894】	【 3,080,332】	147.7
主 要 材 料 費	9,538,226	6,457,894	3,080,332	147.7
【労 務 費】	【 31,798,789】	【 27,248,779】	【 4,550,010】	116.7
賃 金 給 料	19,519,310	15,170,239	4,349,071	128.7
雑 給	7,184,244	7,455,764	△271,520	96.4
賞 与	340,446	919,282	△578,836	37.0
法 定 福 利 費	3,553,326	3,292,552	260,774	107.9
福 利 厚 生 費	1,201,463	410,942	790,521	292.4
【外 注 加 工 費】	【 2,075,252】	【 1,717,152】	【 358,100】	120.9
外 注 加 工 費	2,075,252	1,717,152	358,100	120.9
【経 費】	【 15,091,073】	【 12,857,547】	【 2,233,526】	117.4
旅 費 交 通 費	457,148	431,929	25,219	105.8
減 価 償 却 費	5,264,253	5,523,120	△258,867	95.3
賃 借 料		218,182	△218,182	
保 険 料	488,028	460,672	27,356	105.9
修 繕 費	1,133,380	700,593	432,787	161.8
水 道 光 熱 費	1,292,699	1,196,965	95,734	108.0
燃 料 費	1,577,535	2,035,850	△458,315	77.5
消 耗 品 費	4,144,535	1,779,534	2,365,001	232.9
租 税 公 課	24,000	25,000	△1,000	96.0
荷 造 包 装 費	360,046	265,848	94,198	135.4
支 払 手 数 料	223,368	119,570	103,798	186.8
諸 会 費	44,781	33,484	11,297	133.7
リ ー ス 料	33,300	33,300		100.0
雑 費	48,000	33,500	14,500	143.3
当 期 総 製 造 費 用	58,503,340	48,281,372	10,221,968	121.2
期 首 仕 掛 品 棚 卸 高	5,969,299	7,914,153	△1,944,854	75.4
期 末 仕 掛 品 棚 卸 高	△7,617,795	△5,969,299	△1,648,496	127.6
当 期 製 品 製 造 原 価	56,854,844	50,226,226	6,628,618	113.2

株主資本等変動計算書

株式会社 新しい村

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	5,000,000	43,000,000	21,185,176	64,185,176	△150,000	69,035,176	69,035,176
当期変動額							
当期純損失			△8,091,722	△8,091,722		△8,091,722	△8,091,722
当期変動額合計	－	－	△8,091,722	△8,091,722	－	△8,091,722	△8,091,722
当期末残高	5,000,000	43,000,000	13,093,454	56,093,454	△150,000	60,943,454	60,943,454

個別注記表

株式会社 新しい村

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 法人税法の規定による定率法

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法

無形固定資産 法人税法の規定による定額法

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済み株式の数

前期末株式数（発行済普通株式）

当期増加株式数（発行済普通株式）

当期減少株式数（発行済普通株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

前期末株式数（発行済優先株式）

当期増加株式数（発行済優先株式）

当期減少株式数（発行済優先株式）

当期末株式数（発行済優先株式）

当 期

前 期

100株

100株

100株

100株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たりの当期純損失

一株当たりの純資産額

当 期

前 期

83,419.81円

72,015.96円

628,283.03円

711,702.85円

その他の注記

議案について

令和 7年 6月20日開催の定時株主総会において、上記の議案は承認可決されております。

監 査 報 告 書

監査役は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの
第24期営業年度の貸借対照表、損益計算書及び附属明細書等の関
係書帳簿、証憑書類等を監査いたしました結果、適法かつ正確であ
ることを認めます。

令和7年5月15日

株式会社 新しい村

監 査 役 金子朝雄 

監 査 役 高橋 博 

□議案第1号 第25期経営方針(事業計画案)の件

第 2 5 期事業計画書案

株式会社 新しい村

企業理念 経営基本方針

(株)新しい村の今期は、町の指定管理者としての5カ年契約期間内の3カ年度を迎えます。

従業員一丸となり宮代町の「農」のあるまちづくり政策推進、並びに指定管理者としての役割と、要求水準基本要項を全ての事業部が十分理解し、お客様第一主義と現場主義をモットーに地域社会に愛され頼られる健全な会社経営を目指します。更に5カ年で掲げた業務要求水準に沿った事業計画を達成できる様邁進して参ります。

企業理念

わたしは、「農」のあるまちづくりの理念を理解し、政策実現のできる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から感謝の気持ちを表現できる従業員を目指します。

わたしは、お客様に心から気配りのできる従業員を目指します。

わたしは、地域社会に愛され信頼される従業員を目指します。

わたしは、仕事に対し常に問題意識を持ち行動できる従業員を目指します。

経営基本方針

ア 新しい村が「農」のあるまちづくりの拠点施設であることを理解し、宮代町と連携、協力を図り、地産地消の推進と農風景の維持保全に努めて参ります。

イ 新しい村を拠点とした交流の輪を更に広げ、「農」に親しむ町民を増やし、新たな価値の創造構築に繋げて参ります。

ウ 指定管理者としての役割の下、宮代町の農業を将来に渡し、守り続けるという使命感と責任感を持って、事業部内の管理運営に努めて参ります。

エ 全スタッフが収益面での意識改革による経営を行い、生産者の所得向上にも努め、極限まで町の委託料に頼らない自立した事業運営に努めて参ります。

オ 施設利用者の平等、公平な利用の確保等、宮代町が定める「管理運営の原則」に沿った施設の運営に努めて参ります。

以上の経営基本方針のもと、全事業部が指定管理者業務要求水準に基づき町との施策共有を図りながら具現化に向け安定した会社運営に努めて参ります。

今期も運営にあたっての施策としましては、大きくは取締役会の充実と、現場で働く従業員との社員定例会議を有効に活用し、スタッフとのコミュニケーションを図りながら状況確認による的確な判断の下で、業務改善に努めて参ります。

また、(株)新しい村は宮代町の指定管理者であることから、従来通り町役場担当部署、及び新しい村事業部スタッフとの月に一度の経営会議の継続は不可欠で、毎月の社内運営状況確認や事業計画進捗度に関しての助言や運営面での共有を図り、より良い施設環境を最大限に活かし、お客様の満足度を高めて参ります。

更に、今後も加速が予想されます農業従事者の高齢化と後継者不足により社内農業支援事業部におきましては、「水稻苗、稲作、農作業受託業務」等の拡大体制を視野に入れ日々の業務を行って参ります。さらに今年度から農業用ドローンの投入により効率化なスマート農業を推進します。

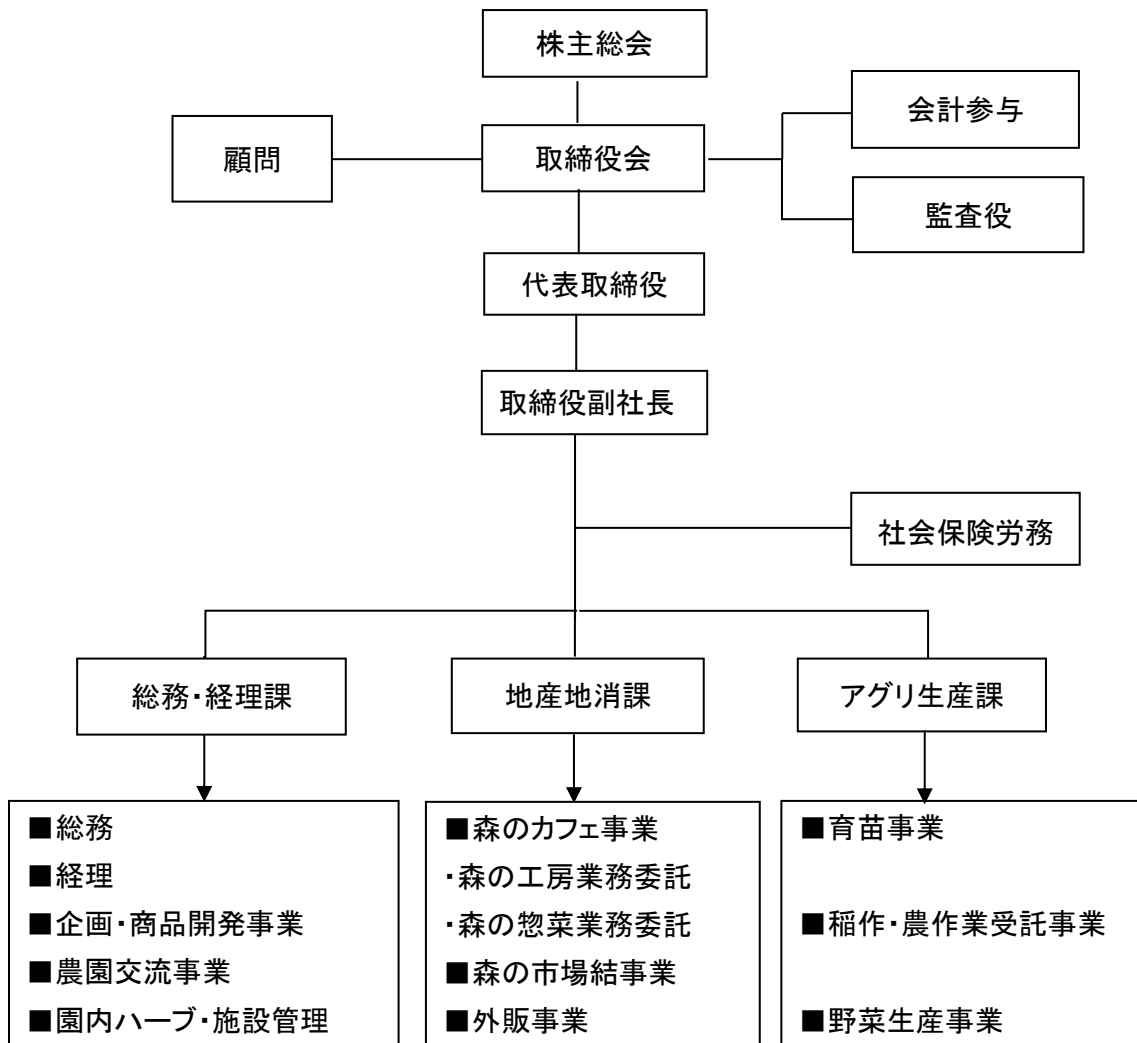
同時に森のカフェは、地産地消推進を常に心がけ運営に努めていますが、森の市場「結」に於きましては、課題となっている現状生産者の高齢化と後継者不足により出荷量は減少傾向にあります。

現状打開策としましては、常に担い手の発掘の推進と自社野菜部門にての農産物生産量拡大を含め、あらゆる手段で売場展開を図り、お客様に支持される直売所を目指し、生産者、商業者、及び従業員の生活の安定を目指した運営を図って参ります。

さらに新規事業として東武鉄道と東武動物公園や日工大、企業や団体などと連携を組み遊休地活用による高付加価値な体験や教育コンテンツの造成に取り組み、収益性向上に努めてゆきます。

改めて、株式会社新しい村に求められる役割は町の第三セクターであり、町の政策である「農」のあるまちづくりを前提とした活気溢れる施設運営と信頼されるべく健全な会社経営に向け、「お客様、生産者、商業者、関係機関」と情報共有を図り今期も進めて参ります。

【株式会社新しい村組織図】



施設の事業運営について

(1)地産地消モデル事業(森の市場「結」、森のカフェ運営)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 宮代町の「農」のある環境を最大限に活かし、農産物直売所としての更なる活性化を図ります。
- イ 自然豊かなロケーションを最大限に活かし、直売所とマッチングした憩いの場としてお客様に利用していただく施設を目指します。
- ウ 町内、町外のお客様へ、安心・安全な農産物を地産地消の基本理念に基づき、食材提供の場としての販売所づくりを常に心がけます。

【令和7年度事業計画内容】

①森の市場「結」運營業務

- ア 商品の地場産率を維持継続(売上高2億4,000万円以上)
 - i 生産者とのコミュニケーションによる地場産野菜の確保
 - ii 農産物集荷サービスによる商品確保
- イ 安心・安全な商品の提供
- ウ 職員教育
- エ 学校給食センター及び大型施設等への納品(売上高1,500万円以上)
- オ 効果的なPR活動の実施

②森のカフェ運營業務

森のカフェの目的は、お客様に自然環境に恵まれた環境の中でゆっくり料理を味わっていただくことは最もですが、他に宮代町の季節ごとにとれた新鮮な農産物のおいしさを味わい、宮代産農産物への興味を深め、食を通して宮代町の「農」のある風景を感じていただくことにあります。令和7年度の事業計画は以下のとおりです。

- ア 新商品開発(新規メニューの考案や商品リニューアル等)
- イ 売上額の向上(売上額1,000万円以上)
- ウ 滞在時間を延ばすための飲食スペースの充実

③森の工房運營業務

森の工房は、カフェ同様、宮代町の季節ごとに採れた新鮮な農産物のおいしさを味わっていただくことで、宮代産農産物への興味を深めていただき、食を通して宮代町の実風景の保全等、「農」のあるまちづくりを推進していくことを目的としています。

また、規格外の農産物を有効利用することでフードロスの減少にもつなげています。

令和6年9月よりパン・ピザ部門を「㈱ケイズハウジング」、令和5年8月より惣菜部門を「アンカルク株式会社」に協力をいただき、新鮮な宮代産の農産物にこだわったパンやピザ、惣菜はお客様からも大変好評です。令和7年度も引き続き「㈱ケイズハウジング」、「アンカルク株式会社」へ再委託を行い、お客様と生産者に喜ばれる商品販売を手がけるとともに、

会社の安定経営に資するよう努めていきます。

④生産者組合会議運営協力業務

森の市場結では、生産者自らが、より良い農作物の生産を学び、互いに情報を交換し、農家と商業者とが交流を図り、組合全体で森の市場結の売上向上に努めます。

ア 年4回の運営会議

イ 年2回以上の生産者組合だよりの発行

⑤利用者会議運営業務

弊社では平成28年度より、より良い「直売所、カフェ運営」とお客様との交流機会の増を目的に「消費者モニター」を公募し年4回（11月、2月、5月、8月）開催しています。

また、モニター会議とは別に多くのお客様からの情報提供を得られる一つの手段として、森の市場「結」及び森のカフェには、アンケート用紙と掲示板を設置し、お客様からの声を積極的に聞きし、森の市場「結」、森のカフェ、森の工房の運営改善につなげています。令和7年度も引き続き行います。

⑥生産者集荷・商品宅配サービス業務

少子高齢化の流れは森の市場「結」も同様です。高齢化に伴い、運転免許の返納や家族の独立等によって、圃場での生産はできるものの出荷ができない農家が増えています。

また、お客様についても「買物難民」という言葉があるように、移動が困難な高齢者がお米や野菜等、重い農産物の買い物に困っているケースが増えています。弊社ではこうした課題に対応するため、平成29年度より「集荷宅配サービス」に取り組んでいます。令和7年度は、安定した供給量を確保した移動販売支援として各関係者と再確認し調整し実施に迎えるよう考えております。

⑦取り組みの目標値

森の市場結は単なる直売所ではなく、地域の農業と消費者をつなぐ架け橋となることを目指し、地元の農産物を中心に据え、その魅力を最大限に引き出す売場づくりに取り組んでいます。別途、取り組み計画表を作成し、スタッフ全員で意識をしながら四半期毎の進捗確認と、最終四半期には次年度の予定の作成を行います。

ア 新規生産者の獲得(5名)

イ 買取生産者・仲買業者獲得目標(2社)

ウ 地場産を明確化した売り場レイアウト変更

⑦売上計画（単位：千円）

ア 森の市場「結」 第25期月別売上計画表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	22,700	28,000	17,500	16,000	21,000	20,900
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	20,500	17,300	24,000	16,000	16,700	20,000

イ 森の市場「結」 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	126,100	52.4%	114,542	110.1%
下半期	114,500	47.6%	119,945	95.5%
年間合計	240,600	100.0%	234,487	102.6%

ウ 外販事業 第25期月別売上計画表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	1,350	1,500	1,500	1,480	820	1620
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	1,590	1,430	1,980	1,610	1,550	1,220

エ 外販事業 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	8,270	46.9%	8,058	102.6%
下半期	9,380	53.1%	9,312	100.7%
年間合計	17,650	100.0%	17,370	101.6%

オ 森のカフェ 第25期月別売上計画表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上予算	1,080	1,100	870	800	900	1,000
月	10月	11月	12月	R8/1月	2月	3月
売上予算	1,000	850	600	620	650	980

カ 森のカフェ 「上半期・下半期」売上予算、及び前期対比

項 目	売上予算	売上構成比	前期実績	前期対比
上半期	5,750	55.0%	5,539	103.8%
下半期	4,700	45.0%	4,430	106.1%
年間合計	10,450	100.0%	9,969	104.8%

キ 地産地消事業全体売上計画表

項 目	売上概算	前期実績	前期対比
森の市場結	240,600	234,487	102.6%
外販	17,650	17,370	101.6%
森のカフェ	10,450	9,969	104.8%
合計	268,700	261,826	102.6%

施設の事業運営について

(2)農家支援・農業サービス事業(育苗、農産物生産、圃場管理)

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 「農」のある環境を維持再生していくための、農家に対する支援対策事業を行います。
- イ 関係機関と連携をとり「農」のあるまちづくり政策に基づいた農業支援事業としての社内受け入れ態勢の確立を目指します。
- ウ 自社生産部門の収益増、直売所の課題である農産物出荷量減の一部解消、及びその他関係取引施設への安定供給を図りながら、年間を通しての本格的な野菜生産を行います。
- エ 中長期的に、町との連携を図りながら、遊休農地を活かした、新規就農者及び農業担い手研修の育成拠点施設を視野に入れたシステムの構築を目指します。

【令和7度事業計画内容】

①水稲苗生産販売の強化

品質及び育苗管理の省力化に成果のあう「全面プール育苗方式」を採用しています。

- ア 引き続き、水稲苗の生産枚数は30,000枚以上を目標とします。
- イ 安心安全な米作りのために、種子消毒は温湯消毒で行います。

②育苗施設の有効活用

水稲苗育苗パイプハウスを利用して、以下の有効活用を行っていきます。

- ア 育苗用パイプハウスの貸出
- イ 野菜の育苗施設として活用しています。(春作付けは、トウモロコシ、枝豆、秋作付けはサツマイモ、キャベツ、ブロッコリー)
- ウ パイプハウスは、台風や降雪への対策を講じ、周辺を防草シートで覆う等適切に管理します。

③自社生産農産物の安定供給

- ア 水管理や施肥を工夫し、継続して高品質な自社生産米の生産を継続して生産します。
- イ 圃場ごとの作付計画及び管理シートを作成するとともに、化学肥料及び化学農薬の低減に努め、安心安全な高品質野菜の販売を行います。
- ウ 品種別に特別栽培米の生産比重を高め販売量の増大や販売企画の工夫を行います。
- エ 専門技術を要する、冬期に暖房器具を使用した抑制栽培としてトマトの栽培を行います。

④農園交流事業との連携

新しい村敷地内の収穫体験用圃場は、農園交流職員と協力して、アグリ生産課の職員が一部の畑作物の育苗、定植を行っています。また、田んぼの畔塗りや代掻き作業等専門の農業技術を要する部分についてもアグリ生産課職員が作業を行っています。さらに農園交流事業で使用する農機具と技術を共有連携しています。令和7年度も引き続き行っていきます。

⑤人材確保のための取り組み

今後の後継者含め充実した部門にするためには、今後の事業拡大の一環で課題となっている人材育成の一つとして、体験型人材育成講座（Tsucito）を実施します。農業に関心がある人材を募集し、新しい村の未来を支える一人として活躍していけるような人材の確保を目指します。

⑥売上計画金額（単位：千円、面積：a）

ア 農作業受託 第25期農業受託作業売上計画表

項目	受託作業内容	収入見込み金額	前期実績
稲作作業受託	春作業	750	764
稲作作業受託	秋作業	2,300	2,346
その他	耕耘作業・草刈り等	850	848
合計		3,900	4,072

イ 水稻苗育苗計画 第25期水稻苗販売予定金額表

項目	出芽苗	硬化苗	前期出芽苗	前期硬化苗
販売予定金額	7,076	14,425	7,452	13,086
合計金額	21,501		20,538	

ウ 稲作（作付け）計画 第25期2025年度産米品種別稲作及び収量計画表

No	品種	実利用面積（a）	30 kg/袋
1	コシヒカリ	1,165.10	1,747
2	特別栽培米コシヒカリ	197.07	295
3	特別栽培米彩のきずな	208.21	312
4	満月もち	11.06	16
5	ほしじるし	136.17	204
6	にじのきらめき	215.08	322
7	TR3344 試験栽培	97.59	145
	合計	2,030.28	3,041

エ 稲作（作付け） 前期実績

No	品種	実利用面積（a）	30 kg/袋
1	コシヒカリ	1,278.29	1,963
2	特別栽培米コシヒカリ	156.52	234
3	特別栽培米ミルキークイーン	145.67	195
4	特別栽培米彩のきずな	92.70	48
5	満月もち	11.06	9
6	ほしじるし	260.67	
7	飼料用米		382
	合計	1,944.91	2,831

オ 稲作（作付け）計画 第 25 期 2025 年度産米販売計画表

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上概算
1	日本工業大学（㈱NIT クリエイト）	650	8,125
2	森の市場結（外販、惣菜含む）	1,200	15,000
3	ふるさと納税	700	8,750
4	その他（契約業務・満月もち・在庫）	491	6,137
	合計	3,041	38,012

カ 稲作（作付け） 前期実績

No	主な販売先	玄米 30 kg/1 袋	売上概算
1	日本工業大学（㈱NIT クリエイト）	240	1,920
2	森の市場結（外販、惣菜含む）	1,113	9,177
3	ふるさと納税	145	1,240
4	JA（飼料用米）	382	1,995
5	その他（契約業務・満月もち・在庫）	95	586
	合計	1,975	14,918

キ 野菜（作付け）計画 第 25 期野菜生産計画表

No	作物名	収穫時期	収益見込み
1	トウモロコシ	6 月中～8 月上	600
2	ブロッコリー	10 月上～	100
3	エダマメ	6 月中～	400
4	ジャガイモ	5 月上～	150
5	キャベツ	10 月上～	100
6	サツマイモ	11 月上～	300
7	トマト	6 月中～、10 月中～	800
8	ニンジン	10 月中～	600
9	他	葉菜類等福作	100
	（前期合計実績）		4,004
	合計		3,150

圃場	作物名	品種	面積（a）
西原圃場 1	エダマメ	湯上り娘	10
	サツマイモ	紅はるか	10
	ブロッコリー	099	10
西原圃場 2	トウモロコシ	恵	10
	ジャガイモ	キタアカリ、十勝こがね、とうや	5
	キャベツ	007	10
山崎	トマト	桃太郎ファイト	2
	トマト	桃太郎グランデ	2
	ニンジン		20

ク 農家支援・農業サービス事業全体売上計画表

No	項目	内訳	売上見込み（税抜）
1	農業受託	稲作	3,900
2	水稻苗育苗	出芽苗・硬化苗	21,501
3	村管理生産	稲作	38,013
4	野菜生産	野菜全般	3,150
	合計		66,564

施設の事業運営について

(3)農体験・農園交流事業

【事業の運営方針】

本事業においては、以下の方針の下、事業展開をしてまいります。

- ア 様々な手法を活用したグリーンツーリズム事業を展開することにより、都市住民との交流を積極的に図り、地域の活性化を図ります。
- イ 「農」のあるまちづくりの理念を広く浸透させていくため、新しい村の持つ自然環境の施設を活かした様々な生涯学習活動を展開します。
- ウ 事業展開にあたっては、市民参加や民間企業との連携により、事業の多面的展開及び拡大を図っていきます。

エ 利用者拡大に向けた農体験・農園交流事業の目標集客数

項 目	目標集客数
市民農園利用料	継続的に 90%以上（64 区画以上）
田植え・稲刈り体験	年 10 回以上・延べ参加者 500 人以上
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者 300 人以上
野菜収穫体験	延べ参加者 400 人以上
畑で婚活	年 5 回以上、延べ参加者 180 人以上
宮代産野菜を使用した料理講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上

※田植え・稲刈り体験は町内小学校 4 校で実施する「田んぼの学校」を含みます。

- オ ほっつけ田の田植え、稲刈り体験事業における年間売上目標額は150万円以上、農業体験企画実施業務における年間売上目標額は300万円以上とします。

【令和7年度事業計画内容】

①集落農園「結の里」利用の促進

集落農園「結の里」は、個人でも借りられる宮代型の市民農園です。都心からも近いので、町内だけでなく町外の方にも週末農園ライフを楽しんでいただけるよう、施設の適正な管理や利用者への指導の実施、ホームページでの利用者募集やポスターを作成しPRする事で、現在まで利用者は継続的に100%となっています。お問い合わせが多く需要が高かったため、令和元年度に、新たに5区画増設し、募集を行っています（平成30年度までは全67区画、現在は全72区画）。

なお、集落農園「結の里」では、互いに協力し合いながら農園ライフを楽しんでいただくため、設立当初からの五人組制度を継続するとともに、年に2回共同作付を開催し、それぞれの野菜の成長をみながらお互いに親睦を深めていただいています。

さらに、年に一度、森の市場「結」組合員の生産者を講師に迎えた勉強会等を開催し、技術の向上と利用者同士のコミュニケーションを促進しています。令和7年度も継続して行います。

②(農業体験1) ほっつけ田植・稲刈り体験の実施

平成29年度より農園交流の中でも事業目標の中心としてきた「ほっつけ稲作体験」では、新しい村敷地内の掘上田「ほっつけ田」で農業体験を実施し、述べ1,400人を超える来園者数となり、企業、教育団体、親子連れのお客様で盛況でした。田植や稲刈りは昔ながらの手植え・手刈りでを行っています。令和7年度も継続して行います。

③(農業体験2) ブルーベリー摘み取り体験の実施

町内ブルーベリー農家にアドバイスを受け、ブルーベリーの木の剪定や土壌改良、圃場の拡大をし、収量や味の改善を行いました。収穫したブルーベリーは延べ参加者300名以上の摘み取り体験のほか、自社でブルーベリージャムとして製造販売を行い、町の桜市や産業祭等の外部出店、その他は町内給食センターに納品をし、町内小中学校の給食で提供されました。令和7年度も継続して実施いたします。

④(農業体験3) 野菜収穫体験の実施

6月と11月に野菜収穫体験を開催し、一般のお客様のほか学校教育・福祉団体や企業等、延べ参加者400名以上の方に体験していただきました。(さつまいも・じゃがいも) 今後は、直営農場での野菜の栽培技術を向上させ、新たに「ネギ」「落花生」等の収穫体験コースを増やしていきます。

⑤農作業をとり入れた婚活等交流事業の実施

婚活事業は平成22年より継続している大変人気の講座で、現在までに80回開催し、参加者2,700名以上、カップル成立は300組以上の実績があります。カップルになった後ご成婚の報告や、村の集会所でご両家親族の顔合わせパーティ、ご成婚された後に宮代町へ居住・出産等、私達が思う以上の出来事や様々な温かいお言葉をいただいています。新しい村だけではなく、町内農家宅や東武動物公園でのイベントも実施し、地域の活性化を図っています。令和7年度以降は、参加者一人一人にゆっくり会話をしていただけるような今までと違う形のイベント含め年間5回以上、延べ参加者180名以上を目標に実施します。

⑥民間企業とタイアップした様々な交流体験事業の実施

食育を推進する民間企業とタイアップし、施設内の圃場や村の集会所を利用して収穫した農産物を使用する昼食作り、ざりがに釣り大会等を開催しています。

また、「農」を学び親しむ体験型講座「ほっつけ農遊塾」では、近隣農家での梨狩り体験やJA南彩と共同でのお米の脱穀機・もみすり体験をし、農産物や農具に直接触れ合う事で農体験を総合的に楽しめる講座を開催しました。今後も継続して、年3回以上、延べ参加者30人以上を目標に実施します。

⑦「農」のあるまちづくり講座実施事業

体験参加者へ「農」のあるまちづくり及び新しい村で販売している地場産野菜やハーブ等のPRを行い、リピーターの確保に努めました。

また、町内の活性化のため、町内商工業者と連携し講座を実施しました。森の市場「結」

で販売している農産物等を活用した講座を実施することで地産地消の推進を目指してきました。これまで取り組んできたことに加え、新しい村で収穫されたハーブを活用した講座、町内商工業者や町内で活動している指導者等と連携した講座の拡充を実施していきます。数的な目標としては、地場産野菜を活用した料理講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上、ハーブを活用した講座を実施し、年間6回、延べ参加者60人以上を目指します。

⑧ハーブ園の圃場を拡大し、ハーブの収穫体験を実施

ハーブ園については、令和元年度にリニューアルをするとともに、農の家の前の水路沿いにラベンダーとローズマリー、タイム等を定植し、新たな観光名所にすべく努力をしてきたところです。ラベンダー通りのハーブはホームページ等でPRを強化し、収穫体験の実施やラベンダーオーナー制の実施、外部委託販売を行っています。

また、町と連携して、今後の新しい村のハーブ園の拡張に向けて、市民参加でアイデアを募集する等してまいりました。令和7年度も引き続き行っています。

⑨ハーブの有効活用

平成29年度よりハーブの専門企業株式会社生活の木と業務委託契約を交わし、アドバイスを受け、平成30年度にリニューアルオープンをしたメディカルハーブガーデンではラベンダーやミントを商品とし、6次化商品の販売をしてきました。ハーブに関わる職員はハーブの知識を身につけ、その魅力を利用者に伝えるために資格を取得しています。(メディカルハーブコーディネーター・ハーブ&ライフコーディネーター各1名)。今後もハーブと新しい村をより身近に感じてもらう事で、新たな層の来園者との交流体験を行います。

⑩バーベキューによる地産地消の推進

新しい村の環境に親しんでもらうとともに、地場産野菜を使用したバーベキューで地産地消の推進を図り、新たな訪問者を増やし、新しい村のファンを増やしていくことを目的に、平成30年9月から、芝生広場の一部を使用したバーベキューの利用を開始しました。

令和7年度はバーベキュー場でのキャンプ食材を追加し地産地消の推進に努めます。

⑪売上計画(金額単位：千円)

項 目	目標集客数	売上計画	前期実績
市民農園利用料	継続的に90%以上(64区画以上)	870	874
田植え・稲刈り体験	年10回以上・延べ参加者500人以上	2,150	2,140
ブルーベリー摘み取り体験	延べ参加者300人以上	310	299
野菜収穫体験	延べ参加者400人以上	180	170
婚活交流	年5回以上、延べ参加者180人以上	400	67

宮代産野菜を使用した料理講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上	100	88
1 年を通じて農体験を総合的に楽しめる講座	年 3 回以上、延べ参加者 30 人以上	470	467
ハーブ講座	年 6 回以上、延べ参加者 60 人以上	410	407
6 次化商品開発		290	289
その他講座		160	150
ハーブ売上		400	398
施設貸出、その他商品、イベント出店等		1, 360	1, 706
合計		7, 100	7, 055

施設総合管理について

(1) 第25期年間スケジュール表

自然環境の保全と園内の美化に努め、来園者の安全確保と癒しの空間造りを目指します。

No.	管理業務内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1	草刈作業	○	○	○	○	○	○
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年 1 回）			○			
8	害虫駆除	○	○	○	○	○	○
9	特別清掃				○		
No.	管理業務内容	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
1	草刈作業	○	○				
2	施設修繕	○	○	○	○	○	○
3	消防点検						○
4	浄化槽点検・清掃（定期）			○			○
5	浄化槽法定点検						○
6	電気設備点検（定期）	○		○		○	
7	電気設備点検（年 1 回）						
8	害虫駆除	○	○				
9	特別清掃					○	

第25期各事業部収益計画

(1) 第25期各事業部収益計画(金額単位:千円)

項目	勘定科目	収益計画	前期実績
売上高	カフェ事業（地産地消課）	10,450	9,969
	直売所事業（地産地消課）	240,600	234,487
	外販事業（地産地消課）	17,650	17,370
	農業支援事業（アグリ生産課）	66,564	46,147
	グリーンツーリズム事業（総務・経理課）	7,100	7,055
	事業部計	342,364	317,028
	売上総損益金額 指定管理料含む	111,000	
	販売費及び一般管理費合計	110,000	
	営業利益	1,000	
	経常外損益	6,000	
	経常損益金額	7,000	

□議案第 2 号 取締役の報酬額の件

取締役の受けるべき報酬の額を年額 600 万円以内とし、支給の額は取締役会議で決定する。

□議案第 3 号 監査役の報酬額の件

監査役の受けるべき報酬の額を 1 名につき年額 8 万 4 千円とする。

□議案第 4 号 会計参与の報酬額の件

会計参与の受けるべき報酬の額を年額 19 万 8 千円とする。